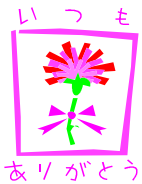


つながろう！絆・連合



JEC 連合
の活動紹介

発行：連合（総合組織局・連帯活動局）
電話 03-5295-0513 FAX 03-5295-0547 rentai@sv.rengo-net.or.jp
日本労働組合総連合会（連合） <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

宮城県・女川町で社会貢献研修会を開催

JEC 連合では、2011年3月の東日本大震災以降、専門チームを立ち上げて、社会連帯・貢献活動を更に強化するための検討を重ねてきました。そして、「環境からヒトへ」をスローガンに、従来の植林等の環境保護を中心とした活動から、教育の機会に恵まれない児童へのサポートを中心とした社会貢献活動へのシフトを進めています。

その一環として震災復興関連の新たな支援の可能性を検討していたところ、震災の多大な被害を受けた宮城県沿岸部の女川町において、NPOが運営する放課後学校の活動を知ることとなり、その「女川向学館」を初めとした現地視察と座学をドッキングさせた新しい事業として「社会貢献研修会」を開催しました。

★1月23日（金）15時～17時15分

女川町被災地視察（語り部ガイド）

加盟組織及びJEC連合本部の総勢18名がJR仙台駅に集合し、貸し切りバスで女川町に移動（約90分）しました。まず、女川町観光協会のご手配で、語り部ガイドによる被災地視察を行いました。カタールからの20億円の支援で建設した多機能水産加工施設「マスカー」、「復興まちづくり情報交流館」、「コンテナ村商店街」、「きぼうのかね商店街」を見学しました。



「マスカー」零下30度の冷凍庫



復興まちづくり情報交流館で
語り部ガイドによる説明



コンテナ村商店街



高台から見下ろす被災地の様子

★1月23日（金）17時30分～18時45分

放課後学校「女川向学館」訪問

続いて、地元の小学生・中学生を対象に、NPO法人カタリバが女川第一小学校の校舎を借り、夕方から授業を行う女川向学館を訪問し、広報担当の川井さんより説明を受けました。学校の設立経緯、意義、成果等を伺い、また同校OGの生徒による報告、質疑応答、校舎内見学と進めました。



学校入り口



川井さんによるご説明



川井さんとOG生徒



集合写真

★1月24日(土)9時～12時 座学 於:トレーラーハウス宿泊村「エルファロ」内会議室

23日の夜は、震災で宿泊施設が全滅し、厳しい建築制限の中、町の再生に向けてトレーラーで建設された「エルファロ」に宿泊しました。そして翌24日は、同施設内会議室にて座学として、最初にエルファロの佐々木理事長より、エルファロ設立の経緯や現状についてご説明を受けました。続いて、「連合・JEC連合の社会貢献活動の紹介」(パンフレット「7つの絆」を用いさせていただきました)、「参加者による各単組の社会貢献活動報告」「意見交換」「各自のアクションプラン作成と発表」と進めました。その後、女川町医療センターを視察、地元名物の女川井を昼食で頂き、仙台駅で解散となりました。



エルファロ佐々木理事長ご講演



座学の様子



エルファロ前にて集合写真

★所感

仮設住宅で暮らし、自習場所も満足に取れない小中学生らに対し、学習の場を提供する「女川向学館」の活動に感銘を受けました。また、被災地視察や「エルファロ」での宿泊を通し、女川町の皆様が被った深刻な被害や、復興にかける熱意を感じることができました。3月には震災後に休止していたJR女川駅も再開されるとのことで、今後も女川町の復興を見守っていききたいと思います。



トレーラーの宿泊施設(車輪付き)

◆連合本部「要求と提言」策定のため被災地の実態調査へ

2月2日(月)と3日(火)、連合本部は、次年度の「要求と提言」に、東日本大震災からの復興・再生に向けた政策をを反映するため、連合岩手の協力の下で、釜石市、岩手県庁復興課、岩手労働局を訪問し、ヒヤリングを行うとともに、釜石市と大槌町を視察しました。被災からまもなく4年ですが、釜石市を含む岩手県にも様々な課題が山積していることが今回の訪問で改めて分かりました。各所では、「復旧・復興を支える人手が不足している」という現実や、「被災した方々が住んでいたところに戻れない、戻れても仕事がないといったことから、どのように産業を発展させ、復興に結びつけるか」といったことが課題としてあげられました。また、「報道でも震災のことがあまり取り上げられなくなり、関心が遠のいていると感じる」といった意見もありました。このヒヤリングと現地調査は宮城、福島でも実施します。



津波が襲った時間に止まった、旧大槌町役場庁舎跡の時計